

1 1)西の湖の水草現存量と水深・水温の推移

西森克浩

【目的】

西の湖での水草現存量と水深・水温の関係を分析する。

【方法】

平成 12 年度真珠養殖漁場環境管理事業業務報告書（県水産課が県真珠母貝漁業協同組合に委託）のデータを分析した。

【結果】

西の湖に 4 つの調査地点を設けて調査された（図 1）。

St.1 の調査結果を図 2 に示した。マツモとフサモが多く繁茂した。水草の現存量は、4 月下旬から 6 月中旬頃までは 70 g/m^2 から 300 g/m^2 の間を変動しながらもほぼ横這いで推移した。その後、水深が 120cm を下回りかつ水温が 25°C を上回った 6 月下旬から、水草現存量は増加しはじめ、8 月上旬にピークとなった。8 月中旬以降は、水温の低下に伴い、水草現存量は減少しはじめた。

St.2 の調査結果を図 3 に示した。オオカナダモが多く繁茂した。水草の現存量は、4 月下旬から 6 月中旬頃までは 30 g/m^2 から 210 g/m^2 の間を変動しながらもほぼ横這いで推移した。その後、水深が 100cm を下回りかつ水温が 25°C を上回った 6 月下旬から、水草現存量は増加しはじめ、8 月上旬にピークとなった。9 月上旬に入って水温が 25°C を下回った頃から水草現存量は減少しはじめた。

St.3 の調査結果を図 4 に示した。オオカナダモが繁茂したが、St.1、St.2 と比べ水草の繁茂量は少なかった。4 月下旬から 8 月上旬頃までは 10 g/m^2 から 300 g/m^2 の間を変動しながらもほぼ横這いで推移した。8 月中旬頃から水草現存量は増加しはじめ、9 月上旬にピークとなった。9 月上旬を過ぎて水温が 25°C を下回った頃から水草現存量は減少しはじめた。

St.4 の調査結果を図 5 に示した。水深が深いため水草は繁茂しなかった。

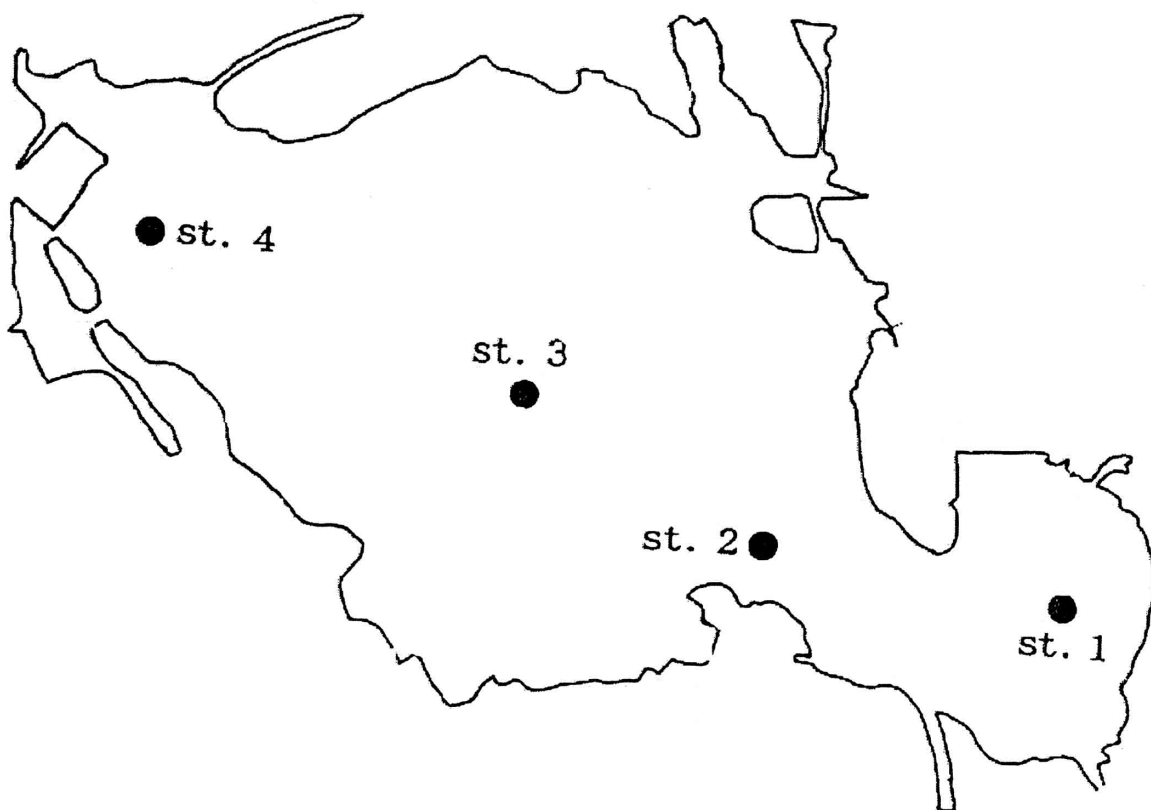


図 1 調査地点

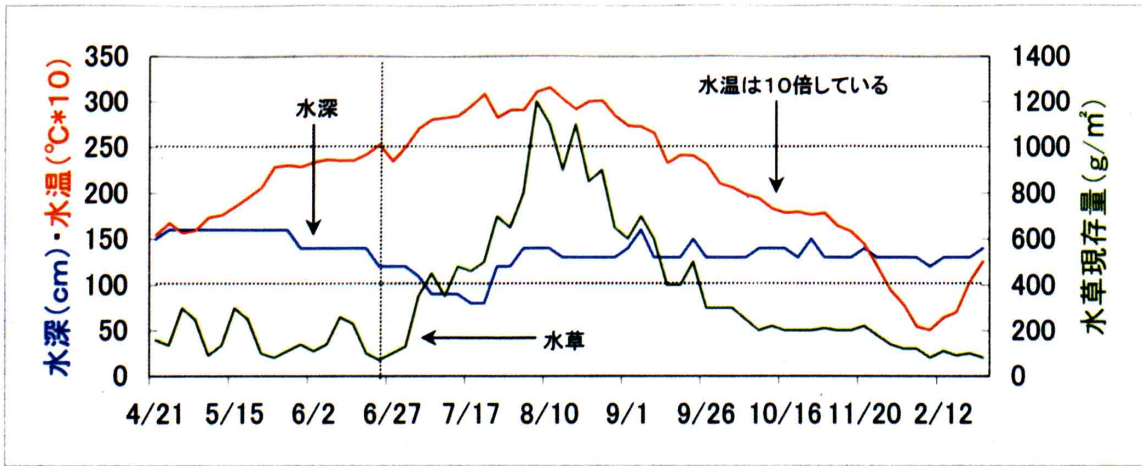


図2 St.1(水草はマツモとフサモが主体、現存量にはアオミドロを含む)

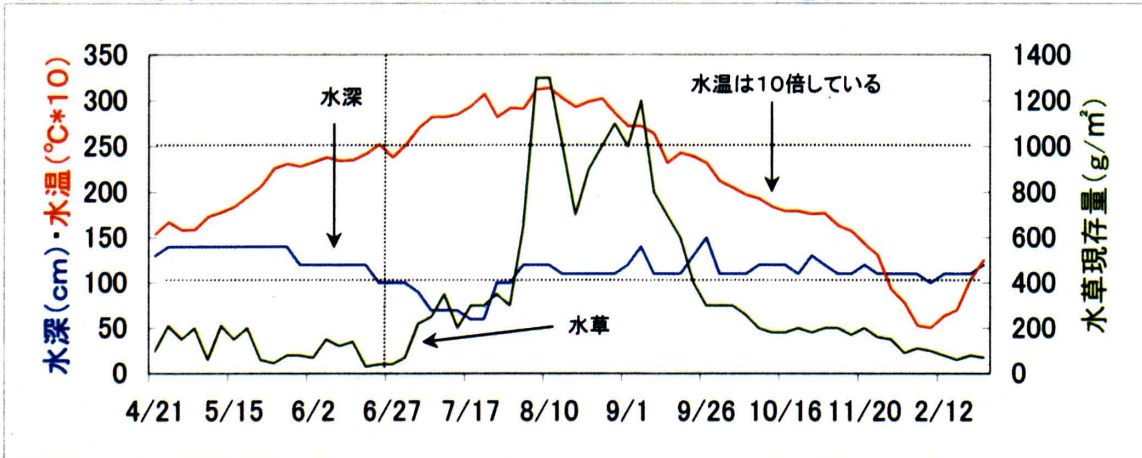


図3 St.2(水草はオオカナダモが主体、現存量にはアオミドロを含む)

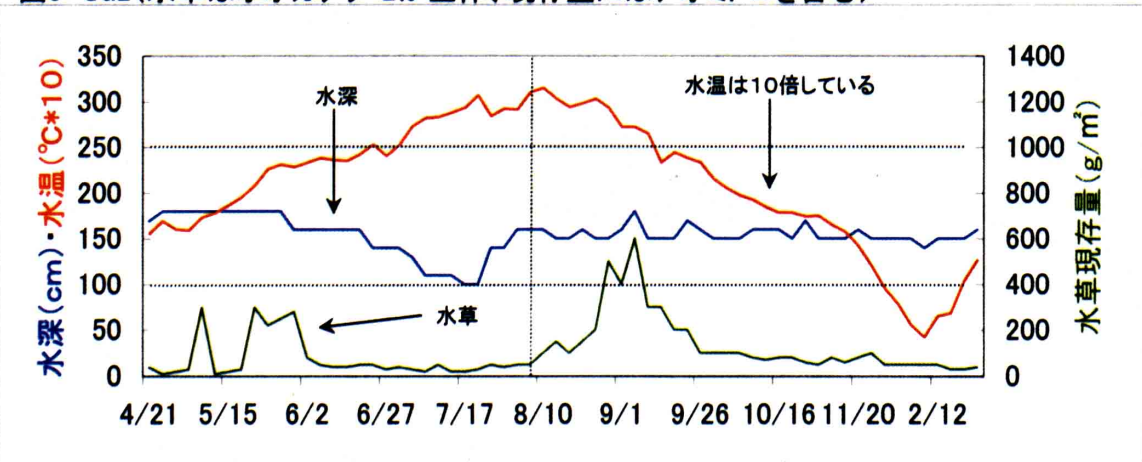


図4 St.3(水草はオオカナダモが主体、現存量にはアオミドロを含む)

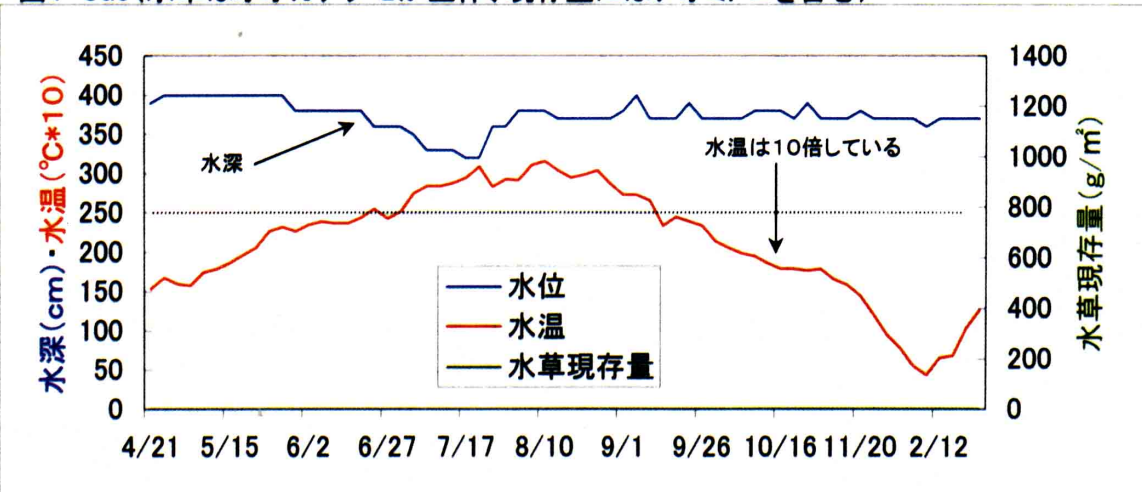


図5 St.4(水草は繁茂しなかった)